本資料は、2014年２月11日に開催された第３回「被災者支援会議」で配布されたものです。

２０１３年支援活動の記録①

３１１　有志　　齋　藤

≪活動早見目次≫

はじめに（昨年の支援会議）――――――――――――――――――――――――――――Ｐ１

Ⅰ　「仮設住宅」「被災地」訪問

≪４月　福島県本宮市内「仮設住宅」訪問≫

１３日（土）★「栗木平仮設住宅」「高木仮設住宅」「三春の滝桜」★――――――――Ｐ２

★中山峠の夕食　土湯温泉宿泊★

14日（日）★「石神第一応急仮設住宅」「恵向仮設住宅」★――――――――――――Ｐ３

≪４月　「二本松市」仮設住宅訪問≫

２０日（土）☆「杉田農村広場仮設住宅」「太平農村広場　仮設住宅」南相馬市立病院☆―Ｐ４

☆南相馬「道の駅」、レストラン「pomme de terre」相馬ステーションホテル☆

２１日（日）☆相馬駅　阿武隈山系　「塩沢農村広場応急仮設住宅」☆――――――Ｐ５

☆二本松少年隊「隊士館」　二本松市内「永田農村広場　仮設住宅」☆

★二本松駅　石巻グランドホテル★――――――――――――――――――――Ｐ６

２２日（月）★牡鹿半島　女川・東松島・塩釜仙台　青年文化センター★――――――Ｐ７

≪６月　宮城県山元町「ジョイントコンサート」≫

15日（土）★山元町・石巻・女川★――――――――――――――――――――――Ｐ８

１６日（日）「朝の出会い」――――――――――――――――――――――――――Ｐ９

★石巻市総合福祉会館「みなと荘」★――――――――――――――――――――Ｐ１０

１７日（月）★陸前高田★――――――――――――――――――――――――――Ｐ１１

≪９月　福島キャラバン≫

２１日（土）★二本松市内「岳下住民センター応急仮設住宅」★

★滝根町「あぶくま鍾乳洞」　見学　常葉町公民館　大ホール★――――Ｐ１２

★こどもの国ムシムシランド内「スカイパレスときわ」宿泊★

22日（日）★本宮市内「石神第一応急仮設住宅」★――――――――――――――Ｐ１３

★二本松市内「旧平石応急仮設住宅」★――――――――――――――――Ｐ１４

《浪江町の方々の体験談》――――――――――――――――――――　Ｐ１５

≪１１月　宮城・福島キャラバン≫

16日（土）★亘理町「舘南（たてみなみ）仮設住宅」　山元町「熊野町仮設住宅」★

★相馬「夕食」・土湯温泉「宿泊」★――――――――――――――――――Ｐ１６

１７日（日）★二本松市「安達運動場仮設住宅」★被災者から聞いたこと★――――Ｐ１７

【エピソード５つ】――――――――――――――――――――――――――Ｐ１８

⑤嬉しい自治会長からのプレゼント

2013 年第２回被災者支援会議

３月３日、夕方、「２０１３年被災者支援会議」。２１名参加。最初１時間余、２０１２年活動総括と２０１３年支援活動方向説明。そして、自己紹介。多様な個性の集まりで互いに初顔合わせなのに、共通の絆、があったりで、大盛り上がり。飲み放題、食べ放題、３０００円。全員、満喫。４月中旬は合唱伴奏、下旬は講談、落語、朗読の仮設周りになりそう。それこそ、多分全員が「参加して、とっても良かった。」。多くの方から、感謝のメール。４月の段取りも見えてきた。中でも、何と言っても、今回初参加の石巻出身、被災者のＵさん。戚だけで５人亡くした、その後の地域の絆が強まり、今年、都内から仙台へ引っ越す、という。支援者と被災者をつなぐパイプになって頂くことを快く了解頂き、早速、義体的な石巻での段取りも翌日からメールで情報交換開始している。

Ⅰ「仮設住宅」「被災地」訪問

≪４月　福島県本宮市内「仮設住宅」訪問≫

１３日（土）

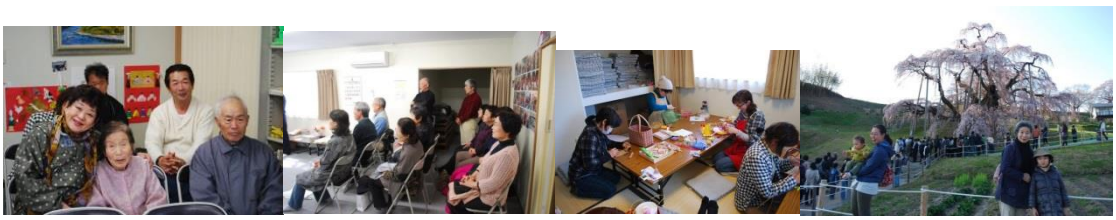
★出発★

６時２０分、東武東上線朝霞駅で２人乗せ、東北自動車道へ。新幹線郡山駅で２人乗せ、また、茨城、千葉、神奈川、東京からの伴奏組５人は、車３台で集合。首都圏から参加は計１０人。それに郡山市の「合唱団」や福島市のボランティア夫妻も、応援に加わり、２０名以上となった。

★第９回　本宮市内「栗木平応急仮設住宅」★

１０時開始。２６名の住民の内、参加者は、数名。それでも、参加者は、１時間半、歌謡曲、フ童謡など１０数曲を唄い、軽体操や曲名当てクイズで爆笑し、「花は咲く」「ふるさと浪江」で泣いた。「お礼」に、と会場に下がっていたモビールの中のひとつを、「私が作ったんだ。」と頂いた。１２時。次の会場へ移動。

★第１０回　本宮市内「高木応急仮設住宅」★



１時スタート。ここには１００名強の住民が暮らすが、参加者数名。でも、最前列のご年配カップル。男性は、硬い表情を時折緩め、女性は、常に小声で口ずさむ。可愛らしい。また、隣の部屋で作業中の若い女性数名も時々参加。１００円ショップで材料を買い、「手編みカゴ」作成中。

★「三春の滝桜」★

３時終了。滅多ないタイミング。近くに「日本三大桜」のひとつ、**「三春の滝桜見物」**。しかも、満開近い。毎年、３時間待ち当たり前。ところが、夕方で帰る方が多く、すぐに無料駐車場に入れた。樹齢千年以上のベニシダレザクラが、ど～ん。圧巻！

ここは、三春近くの常葉町にいる大学の先輩が案内人。１年間、長崎に避難していた小学３年の孫連れ。常葉町は原発から３０㎞と少し。周囲は「帰宅困難地区」だ。帰り道、古民家に立ち寄り、「カエル文字」で有名な絵描き親子を紹介してくれた。じき、１００万匹、に到達する。

★中山峠の夕食★

７時、中山峠、老舗「鞍手茶屋」。メンバーの大半は、昨年５月に来ている。４０年間、行きつけのわたしは、名物「けんちんうどん」セット、で満腹。

★土湯温泉宿泊★

食事後、山越えし、「定宿」となった、土湯温泉**「ニュー扇屋」**へ入ったのは、９時半近く。細身の老社長が、玄関で待ち受けてくれた。男性は、５人同室。当然、「乾杯」。１２時半就寝。

14日（日）

★出発★

７時半朝食。次週は「土湯温泉　こけし祭り」で賑わう。旅館ロビーにも、「こけし　雛人形」。車連ね、土湯温泉を下り、福島市内へ。快晴。前日と違い、暖かい。

★第１１回　本宮市内「石神第一応急仮設住宅」★

昨年１１月「ふるさと浪江」を紹介してくれた、踊り隊本拠地。２０名を超え、郡山の合唱団メンバーも参加で大盛況。昨日も大受けした「曲名当てクイズ」の一曲、「いや～ん、ばか～ん」シンガー、絶好調！合唱のあと、いよいよ、「踊り隊」登場！我々の伴奏で初めて踊る。「踊れる」との評価。ホッとする。１２時、コンビニ弁当、車中昼飯で移動。

★第１２回　本宮市内「恵向仮設住宅」★

１時から、国道４号線のアサヒビール福島工場の近くへ。工業団地隣接の市街地公園内。２５０名近く住む大きい仮設だが、やはり、参加者は少ない。それでも、今回、傑出した「笑い」をとって雰囲気を盛り上げてくれたのが、「スカイツリーの姫」こと墨田区からのスタッフ。「ゆるキャラトーク」大受け。回を重ね、スケールアップ。大爆笑の渦。

踊り隊が３名駈けつけてくれ、「ふるさと浪江」を披露。さらに、７６歳の方、２週間前に作った、という「詩」を朗読。「ふるさと浪江」の望郷に加え、「放射能への怒り」。

≪４月　「二本松市」仮設住宅訪問≫

２０日（土）

首都圏から３台の車分乗メンバーに加え、東北本線「杉田駅」で来たメンバーも乗せ、二本松市内の「仮設住宅」の駐車場で「初対面同士のご挨拶」。首都圏メンバーと、先週配り切れなかった「手土産」を預かり、車満載で来てくれた福島市のボランティア美歌さん。今回は計１８人。

☆第 13回　二本松市内「杉田農村広場応急仮設住宅」☆

１０時。まず、社会人芸人たちの講談。「克紫」さん、「樹又」さん、「亀鶴」さん。それぞれ演目が異なるだけでなく、話し方、持ち味も三人三様。プロ顔負け、迫真のドラマの語りに、来場者１７名が湧く。続けて、話芸集団「ぶれさんぽうず」リーダー斉藤由織さんと池田郁子さんのプロのアナウンサー教育で必ず使う「外郎売り」の連事（つらね）。掛け合い漫才のよう。そして、「軽体操」。最後に、ＣＤにあわせ、「ふるさと浪江」全員で合唱。ＣＤ買った、という高齢者から、「泣ける曲だけど、みんなで歌えて良かった」と握手される。「ビニール袋の手土産と写真を持って帰ってもらい、無事終了。

☆第 14回　二本松市内「太平農村広場　仮設住宅」☆

移動途中でコンビニ弁当。１時開始。今度は、「田頭」さん、「樹又」さん、「はま松」さんの講談。来場者１６名の前で、持ち時間いっぱいに、それぞれ大奮闘。さらに、１９歳のとき、メジャーレーベルでデビュー、その後、学生、社会人となって、やはり、プロ歌手に戻ろう、という「遙花」さん。「聖歌」、持ち歌「君の味方」。心に響く。そして「今日の日はさよなら」を全員合唱。次は、斉藤さんと池田さんの「外郎売り」の連事（つらね）。終わると、その一部を書いた紙を配り、会場全員、「武具馬具武具馬具三武具馬具あわせて・・・」。そこは素人。つかえる。最後は、ヴァイオリンとギター伴奏で、「ふるさと浪江」合唱。「ＣＤで聴くより、今日の伴奏の方が、心に染みた。」無事終了。「ありがとう」「楽しかった」と言われ、こちらも笑顔になる。

☆南相馬市立病院☆

午後３時。全員退避、無人の「飯館村」を通り、５時前に**南相馬市民病院**へ。ここでは、震災前には１２名いた医師が、３名に激減。そこへ東大院生の若い坪倉医師が飛び込みで入り、奮闘中。多忙な方、あえてアポをとらず、激励の差し入れに、「お酒・お菓子」そして全員の寄書き。

☆南相馬「道の駅」、レストラン「pomme de terre」☆

「南相馬」道の駅で買い物後、津波で全てが流された海岸線の道路を走り、「原町火力発電所」を過ぎ、隣の相馬市にあるレストラン「pomme de terre」に５時到着。貸切。参加者の簡単な自己紹介。ほとんど初顔合わせなのだ。そして、食材にこだわったピザやドリア、自慢の「煮込みハンバーグ」を食べ、ワインやビールなどを飲みながら、鎌田シェフの「３．１１当日の状況」を聞く。今は中２、震災時、小５だった次女モモコちゃんの新聞に掲載された作文を、プロ、斉藤さんに朗読頂く。その日、学校帰りに、バイバイと手を振って別れたのが最後となった、「天国にいる一番の親友」への手紙。震災前、２１人の５年生クラスだった「２１人の輪」は、NHKで１０回シリーズで放映。常連客が住めなくなった地域で、やる気を失った父を「私が将来シェフになる」「お父さんのハンバーグが食べたい」と、営業再開を娘が後押しした。

☆相馬ステーションホテル☆

食後、相馬駅近くの相馬ステーションホテルへ移動。男７人、女５：３：２人に分かれる。当然、男部屋で女性も参加して、「酒盛り」。皆、笑い転げた。

２１日（日）

☆相馬駅☆

朝４時半、早朝散歩。氷雨の中、すぐそばの常磐線の相馬駅へ。ここから北は、亘理駅まで「列車代行バス」。新地や山元町の線路は、津波で流されたまま。一方、南へは３駅先の原ノ町駅まで。原ノ町駅から１１駅先の広野駅までは、線路はあるが、原発周辺の「警戒区域」のため、運転見合わせのまま。そこに一人駅員さん。聞くと、浪江出身。高台で家は高濃度の帰宅困難地域。同居家族は分散、大人しい言い方ながら、原発に怒っていた。

☆阿武隈山系☆

７時半。みぞれ混じりの雨の中、二本松へ向け、阿武隈山系を山越え。最初は、「うわー、雪かも。」などと脳天気に喜んでいた「都会っ子」。３０分も走らないうちに、本格的な雪になってきて、ノーマルタイヤ３台は、ピンチ！ いつしか、最後を走っていた１台が見えない。講談組を乗せた３台目の車は安全のため、迂回しチェーン探し。午前の部には、間に合わず。

☆第 15回　二本松市内「塩沢農村広場応急仮設住宅」☆

一方、先を走っていた２台は、なんとか、時間までに雪に煙る「仮設」へたどり着いた。

１０時、「朗読組」と「歌姫」、講談組の穴４０分を見事埋め、１時間半、やりきった。来場者１６名、無事終了。「歌姫」大モテ。彼女の素直な声や、歌詞に感動し、泣いていたオバサン、終わってから、目を腫らしながら、「ありがとう。ホントに良かった、今日は。」。また、親子で聞き入っていた娘さん、「お礼に似顔絵描きました。」。

一方、私は、最初から気難しい自治会長と別室。「孫を見に行った妻は流され、自分は橋の欄干に４時間、水に浸かって、助かった」「妻は、原発爆発のせいで、河川敷に一ヶ月間以上放置され、そのあと、放射能汚染除去で裸にされたまま、水で洗われ、マグロの扱いだった。」「現在、東電と国を訴えているが、最近、裁判官立ち会いの審議があり、東電の余りの字面だけの発言に、私は、机をたたき、泣きながら、この妻への仕打の不当性を訴えた。」・・・。最初の「話すことはない」の強面は一変、笑顔で「まあ、コーヒーでも」と自治会役員も呼び込んで懇談。名刺もくれた。長年都内で暮らし、浪江に戻ってすぐ罹災した女性。都内生活や友達を懐かしんでいた。

☆二本松少年隊「隊士館」☆

１２時、「二本松少年隊」を記念した「隊士館」で、「喜多方ラーメン」。これまで、コンビニ弁当ばかりだったので、ラーメンが美味い。遅れた「講談組」は、コンビニ弁当、だったらしい。

☆第 16回　二本松市内「永田農村広場　仮設住宅」☆

１時開始。来場者１２名。今度は、講談組５人総出演で、午前の穴を挽回。歌、そして朗読も、これまでの３回で、こちらは安心して見ていられた。最後の「ふるさと浪江」合唱も、参加者から「聞きたくない時もあるけど、やっぱり故郷を、せめて、歌だけでも。」と共感の反応。

★二本松駅★

午後３時、二本松駅で解散。前日会ったばかりなのに、苦楽を共にした「同志」。あちらこちらで抱き合ったり、握手したり、と別れを惜しむ。車２台９人、列車で６人。私と支援パートナー古賀さんは一路、石巻へ。

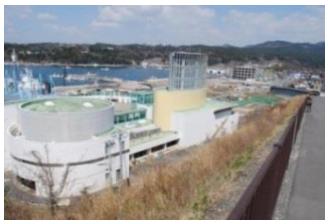
★石巻グランドホテル★

５時半。３月の「支援会議」に参加した都内在住の石巻出身の女性、U さん夫妻と石巻グランドホテルで落ち合う。夫と中央大で同じゼミだった同ホテル社長、親の医院を継ぐ幼友達の女性も同席。幼友達の自宅兼医院は、漫画館近く。３階建てビルは、津波で再開不可。別な場所に移転。すでに、U さん経由で、６月演奏会の３０人分宿泊予約している。

２２日（月）

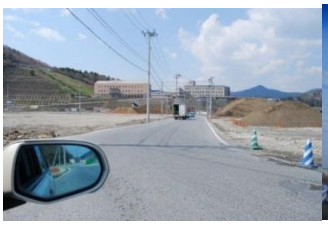
★牡鹿半島★

朝８時出発し、初めての牡鹿半島へ。東日本大震災の震源に最も近い。前日の U さんの親戚のあった「給分浜」や仮設住宅も確認。イベントの出来る談話室ではない。他のいくつもの小さな浜も人家殆ど無く、半島の先、捕鯨の町、鮎川は、ミニ女川や南三陸町。町ごと奥まで壊滅。



さらに牡鹿半島を一周、金華山など見て、女川へ向かおうとすると、「土砂崩れ」のため、「通行禁止」。やむなく、山越え。すると、「電源立地の町牡鹿」の看板があちこち。民宿の名も「コバルト」。山頂の見晴らしの良い場所には、南欧の避暑地を思わせる、電力会社からの掴み金で作った豪華な市民センター、保育所、病院、特養が。しかし、進むと、また「通行禁止」。やむなく、元来た道を戻り、女川へ。素晴らしい景色と、原発のバラマキ。観光客は来れない壊滅した町々、そして道路。支援の手も行きやすい大きな町に比べ、入っていない。課題だ。

★女川・東松島・塩釜★



１２時半、石巻オケ副団長、女川歯科医師Ｋさんと昼食。名物、あなご丼。そこで、１０月の「ファイン・デュオ」コンサートの打ち合わせ。２時、女川観光協会で、今年の「体感ツアー」各種情報入手。今回は土地の嵩上げが始まる直前。５メートル以上、地面が高くなる。道路には、その標識があちこち。仮設住宅から出ても、住む場所が無い。そこで、山を崩し、復興住宅を作り、その土砂で、海岸線の平地を埋め、居住制限しながら、漁業や商店などは戻ってくる構想。大半の倒壊した建物は解体され、平地。

その後、最も津波の浸水地域が広範だった東松島海岸部を通る。これまでは、やや山よりの一般道を通過、海岸線が見れなかった。そして、今回、その荒野の広がりに、牡鹿半島でも感じた、被災の規模の大きさに愕然とした。さらに、塩釜にも立ち寄り、３．１１当日のビデオで目にしていた観光センターの上から、市内を一望した。ただ、ここの津波被害は、他よりは少ない印象。

★仙台　青年文化センター★

７時からの仙台市内の青年文化センターでの東日本大震災チャリティー「ワレフスカ　チェロコンサート」。その招致責任者、Ｔさんに招待頂いた。石巻市民オケ、団長一家やチェロ夫妻と遭遇、ご挨拶。さすが、「幻のチェリスト」。響きや技法に魅了され、９時半、帰路へ。Ｐ７

≪６月　宮城県山元町「ジョイントコンサート」≫

第 17回「311　有志」の有志合奏団＋山元町の歌を作り隊

15日（土）★山元町・石巻・女川★

午前６時出発！私入れて４人。一路、山元町へ。途中、２０１１年「支援物資配布バザー」で毎月通っていた「吉田公民館」へ寄り道。懐かしい！体育館、ようやく整備し終え、７月から使用可になる、という。また２年前には、線路には草ぼうぼう、踏切開きっぱなしだった、常磐線「浜吉田駅」も３月、北隣の亘理駅までひと駅開通！車３台集合。１０時５９分着の女性２人乗せる。しかし、南隣の山元町（山下駅、坂元駅）や福島県新地・相馬・南相馬への復旧は、見とうせない。山元町の町役場近くのレストラン「わか菜」で食事。２０１１年のバザーを主導した現地ボランティア代表Ｎさんに、「近況」を話してもらう。支援はまだまだ必要、の話。「今は、大きな仮設住宅などでなく、牡鹿半島などの小さな集落で、支援の手も行き届かない、物も不足している仮設へ衣類などを持っていくないので、また集め、送ってくれないか。」とも。食後、会場の「青少年福祉センター」へ移動。災害ＦＭ局「りんご」で、生中継取材を受け、参加呼びかけ。

２時から３時まで、「山元町の歌を作り隊」の皆さんの演奏。このあとの１時間、これまでのようにわが「３１１　有志」の「童謡・歌謡曲」カラオケ伴奏。曲当てクイズが盛り上がる。最後に、両方合同での演奏のあと、子供たちや参加者も含む全員で、「この町で」を斉唱。ボーカル「吉田さん」の声が震えていた。最初は、初対面で硬かったが、終わってみれば、笑顔で握手！そのまま、山元町の海岸線に。「常磐山元自動車学校」事務棟も２０１１年秋には解体。原野。ほとんど、「復旧」も「復興」も感じられない。変化は、慰霊碑が出来、中浜小学校の体育館が跡形もなくなり、校庭に山積みされていた車の残骸がなくなった。ただ、山元町から仙台にかけての高速道路から、山側に無数のいちごハウスが見え、Ｎさんが「亘理では、いちごは、８割まで回復した。作り方がかつての土に植えるのではなく、棚に植え、作業しやすいようになった。」と言っていたのを想い出した。

夜は、以前、「被災地体感ツアー」で利用した、石巻の中華「揚子江」で食事。土曜の夜だからか、混んでいる。９時半、真っ暗な夜道を走り、女川へ。津波で流された旅館店主たちが、力を合わせ、営業再開した「ペンション」。パステルカラーの西洋風（スペイン語で「灯台」と言う名）でしゃれているが、たしかにトレーラーハウス。当然、一部屋で、全員集まり、「日本酒」と「焼酎」で乾杯！特に男は、少年に戻り、ジャレたり、笑ったりで大盛り上がり。「仲間」だ。心地良い。そして、睡魔に襲われた。

１６日（日）

【朝の出会い】小学生とおばあさん。

朝５時、散歩。女川の新田地区は、海岸から遥かに内陸部に入った、中央に川が流れる山の中。トレーラーハウスから、山の方へ緩やかな傾斜を登っていく。すると、小学生涼くんに出会う。女川の沖合にある「出島」から、３．１１翌日、自衛隊のヘリで救出され、今は、奥の「新田第２仮設」で暮らしている。いつも、朝４時には目が覚め、散歩している、とも。そして、すぐまとわりついて来る。そして、「明日があるさ、明日がある」と、古い曲を口ずさむ。「なんで、そんな昔の歌をしってるんだ？」「エヴァ（エヴァンゲリオン）だよ。」「それに、小学校の音楽の教科書にあるし・・」。少し歩くと、草刈りに励むお年寄り。「ボランティアには、ホントに感謝」と言われ、立ち話。草刈りの前が、ご自宅だったが、土台のみ。３．１１当日。「近所の誰もが、津波のことなど思いもよらず、あちこちで立ち話したり。暫くすると、知り合いが車で逃げるよう、勧められたが、いったん断った。過去にここまで津波が来たこともない。しかし、直後、遠い海岸方面からの轟音が一瞬聴こえたので、とっさに車に乗り込んで、山の上へ逃げた。３０人ぐらいで焚き火しながら、夜を過ごし、自宅方面に戻ってみると、驚いたことに、自宅も車も跡形もない。結局、自宅は見つからなかった。ここらでは、３０人以上が逃げ遅れ、亡くなった。」「それでも、冬、昼間で良かった。２畳に３人の狭い避難所で、最初の２週間は歯も磨けない、風呂にも入れない、着替えもない。また、食料も無く、海岸の工場から流れてきた冷凍のさんまを拾い集め、食べ続けた。夏だったら、汗はかくは、冷凍もすぐ腐る。また、夜だったら、停電したこの辺は、真っ暗になり、避難する道も見えない。もっと多くの人が犠牲になった。」

【朝の出会い】町議会議員、鯨生態観察員、　タクシードライバー

さらに奥へ。すると、「第１」と「第２」仮設に面した、見た目、健在の家で庭で新聞を読んでいる男性と挨拶。古賀さんや小学生「涼くん」も戻ってきた。すると、奥さん「コーヒーでもどうぞ」、男性「涼、おいで」。３人、テラスに座り、その後…１５分、雑談。３．１１直後の先のご年配の話を裏付ける話から、現在まであれこれ。女川町会議員さんだった。見た目健在の家も、３．１１直後の瓦礫や車が家や庭いっぱい、の写真を示しながら、１階も水没、海抜は、14 メートルだという。あの海岸近くの高台の病院が海抜１６メートル。その２メートル上まで津波が来た。ならば、分かるが、実際には、信じられない場所での光景。そして、別れ際、２３日の石巻総合体育館での「カンタータ」のお誘いをする。すると、なんと、昨年３月の石巻専修大学体育館での「追悼コンサート」にご夫婦で来ていた。

戻って朝食。食べ終わると、テラスで、そこの「年配のマスク従業員」の前職を聞いて、皆びっくり。　北洋で、各国の学者の調査協力し、生息する鯨の元生態観察調査員。さすが、鯨捕鯨伝統の町だ。そして、それまでその地域では生息が確認出来なかった種類「ピグミーブルーホエール」を発見！信じない学者たちも、DNA 採取しての分析で、納得。自宅には、その時の貴重な資料などがあったが、全部流された、という。
出発。先の議員さんの「コバルトラインを行って、小積まで行き、右折すれば、月の浦」と聞いて、その通りに行く。しかし、カーナビでの指示での曲がり角にも、何も表示板もない。迷いながら、さらに女川原発方面へ。不安になり、丁度通りかかった「空タクシー」に聞く。すると、「案内するから、ついてきて」。無事、　車３台、「支倉常長」の銅像にたどり着き、４００年前、欧州へ出航した地図入りの石碑に見入る。

★第 18回　石巻市総合福祉会館「みなと荘」★

１０時、石巻市湊地区の「みなと荘」で、毎月第３日曜日、津波で離散した住民の、顔合わせや健康管理などの場「みんなと行兵衛茶屋」へ。パンケーキの作り方、軽体操（「いつ、ぬー、さん、す～、ごー、ろく、すつ。はつ」と東北弁のラジオ体操は楽しめた）、のこぎり演奏など１時間。

その後の１時間、歌謡曲や童謡の合唱伴奏。加えて、「酒よ」のタンゴヴァージョンにあわせ、昨年と同じ、９０歳を越えたダンディなおじさま、踊ってくれた。４月に福島の８箇所の仮設で歌った「ふるさと浪江」も披露。すると、ひとりの女性が寄ってきて、「浪江の歌に感動した。数年前浪江に旅行したがいいところだった。３．１１後、避難所で辛かったが、原発で転々と逃げ、まだ故郷へ帰れない福島のことを思うたび、まだまだ私たちより大変な人たちがいる、と励みにしてきた。本当に泣けて仕方なかった。」と目を真っ赤にしてお話された。
　１２時半。津波被害で、仮店舗営業を余儀なくなれ、ようやく１週間前、元の場所で営業再開、という、創業１００年以上の老舗「滝川」で昼食。昨年のコンサート以来、親交を深め、先の「みなと荘」ボランティア館長が、小学校同級生つながりで、予約、案内してくれた。この辺が、昔伊達の殿様の「別宅」が近くにあり、水路、仙台を往復していた、などと。
　その後、石巻初めて、の参加者もいるので、「日和山」を案内。手すり下の看板、「３．１１以前の街並み」と対比しながら、午前中に行った「港小学校」の前の「みなと荘」を見る。改めて、被害を知る。さらに、被害甚大の「南浜地区」へ。すでに有名になった「がんばろう石巻」看板前も、ここの所有者の努力で大幅に整備。津波の高さを示す柱、様々な動画が見られる映像装置なども新しい。そこで、黙祷。日和大橋を渡って、そこで、帰宅組とはお別れ！

１７日（月）

最北限は岩手県大船渡、と決め、出発。普段なら、海岸線を北上は急ぐので、山の中のバイパス利用。宮城県内の雄勝や南三陸町、気仙沼も素通り。そこで、気付く。道に「過去の津波の到達地点」という新たな道案内がやたら、あちこちに目立つ。ただ、途中、南三陸町、歌津の「伊里前福幸商店街」にトイレ立ち寄り。商店街の前に大きな広場が出来て、大型バスも停車。イベント会場にも使われている、と教えてくれたのは、過去に津波ＤＶＤ「歌津大橋崩壊」や「ホタテキャンドル」などを買ったここの土産物店の女性店員さん。私のことを覚えていてくれた。

いよいよ、陸前高田。町に入るやいなや、遠方に、「一本松」が見える。やはり、ランドマークだ。入り口にあるガソリンスタンドで給油。そこには、「一本松展望台」なる手作りコーナー。右には、津波で壊れた中学校校舎。若い店員、「光」君。名前を褒めると、別な店員、「この会社の後継ぎなんです。社長が、敬愛する出光、からとった名前なんですよ。」。そして、「でも、いまだに奥さん、つまり母親は行方不明のままなんです。」と教えてくれた。

そして、大きな専用駐車場に車を置き、「奇跡の一本松」へ。足元の壊れた建物は、ユースホステルだったそう。地元の方々にとって、７万本の松林は誇りであり、馴染みであり、校歌で刷り込まれ、それが３．１１で壊滅した時に、たった一本「すっく」と高く踏み応えていた姿は、本当に励ましになった、という。月曜にもかかわらず、人並みは耐えず、移動土産物店まで。

さらに、北上。大船渡市駅に到着。線路は舗装され、BRT（バス）のレーンになっていた。その後、少し遠回りし、小友町へ。大船渡から３駅。広田半島の付け根。３㌔の平野部が両側からの津波で貫かれ、一時期は、半島は本土と分断、「島状態」になったところ。

その近くに自動車キャンプ場「モビリア」があり、ここにも珍しい一戸建てのプレハブ仮設住宅が林立。２０１１年、亘理支援に参加のアメリカ人英語教師が、近々「足湯」マッサージ支援をやる場所。高台に登ったら、景色の美しさと、異様さに絶句。広田湾には養殖の浮き、その先には、原野化した陸前高田町が一望。左に一本松の壊れた水門は見え、右側には、海岸近くの「夜間照明付き」グラウンドも見える。広大な「ゼロ」の原野だ。帰りは再度の陸前高田へ。

「みんなの家」。高名な建築家、伊東豊雄さんが主導、昨年８月の第 13 回ベネチア・ビエンナーレ国際建築展でグランプリの金獅子賞。いわば「憩いの空間」。休館日だったが、階段を上がって、暖炉や吹き抜けのある内部を覗き、陸前高田市を見渡せる眺望を楽しんだ。もうひとつは、「米沢商会」のビル。各地で津波の高さ、脅威を示す建造物が解体撤去される中、このビルのオーナーは、３．１１当日、この屋上のさらに上につかまり、辛うじて九死に一生を得た経験を後世に伝える義務がある、と解体せず、津波の高さを示すサインを書き込んだ。この広い土地にこの高さ、じゃ助からんね、と改めて、実感。ぜひ、一見あれ。

≪９月　福島キャラバン≫

21日（土）

★出発★

午前５時半、北朝霞駅で、一人乗せ、一路、９時二本松駅へ。２人乗せ、二本松 IC 近くの「岳下仮設」へ。一方、世田谷、八王子、茨城、千葉からの車に分乗したマイカーも同時期に出発。首都圏からは、伴奏バンド９名、スタッフ７名。さらに福島市から２名参加。計１８名。

★第19回　二本松市内「岳下住民センター応急仮設住宅」★

午前１０時。15 曲ほどの「歌謡曲・童謡」の合間に、タンゴ曲５曲披露。皆、聞き入る。そして、軽体操と曲当てクイズで和み、「ふるさと浪江」を「踊り隊」の踊りに合わせ、歌う。終わると、最前列で一生懸命聞いてくれた「ボク」が抱きついてきて離れない。隣で母親が嬉しくて泣いていた。仮設住宅の参加者２２名＋踊り隊３名。

★滝根町「あぶくま鍾乳洞」　見学★

午後１時。２手に別れる。合唱伴奏バンド８人＋合唱指導さんは、開演前練習のため、常葉公民館へ。一方のスタッフ８人と私は、常葉町の隣町、滝根町「あぶくま鍾乳洞」へ。何年ぶりだろう。だいぶ、施設は整備されていた。しかし、連休の土曜日なのに、駐車場はガラガラ。内部は 15 度でひんやり。30 分で見終えた参加者は、「内部の大きさ、高さに驚き、楽しかった」。

★第20回　常葉町公民館　大ホール★

午後３時。午前と同じプログラムながら、１００人近くの観客を前に、舞台での演奏は、始めこそ緊張もした。しかし、多くの笑顔と拍手。なんといっても、このお膳立て、集客に奮闘してくれた大学のサークルの先輩、この町の内科・小児科医院の院長夫妻のおかげ。なんと、「支援金１０万」まで頂いた。申し訳なく、またありがたい。「ふるさと浪江」を歌い、踊っていると、会場のあちこちで涙。とりわけ、終わった瞬間号泣しながら「踊り隊」のひとりに、飛びついた年配女性がいた。聞けば、３０数年ぶりの「再会」。元上司の奥さん、とのこと。思わぬ出会い。５時終了。駐車場で、今回、大変世話になった公民館館長と事務担当へご挨拶。

★こどもの国ムシムシランド内「スカイパレスときわ」宿泊★

「自然王国」の宿泊施設へ。山頂。ちょうど、夕日が沈む。太陽の美しさに皆、歓声。６時から食事＆交流会。改めて、全員自己紹介。寿司職人、和食店経営者に加え、初参加の「舞台プロデューサー」がいて、素人イベントをやった私は、「赤面」。１２時すぎまで、「交流」が続いた。

22 日（日）

朝食前の散歩。観光客が来ない訳だ。ホテル横の駐車場の一部は、「汚染物仮置き場」に。他数箇所。ここは、すでに「戦場」。子どもたち向けの遊戯施設も、いまだ除染出来ず、使用不可。2010 年６月に完成し、大学や高校などの陸上部の「クロカン」合宿も、いまや虚しい掲示。

★出発★

朝食後、午前８時半、午前の会場、３回め訪問となる、「石神第１仮設」へ。

★第 21回　本宮市内「石神第一応急仮設住宅」★

午前１０時開始。ここでは、昨年１１月、今年４月に次いで、３回めの訪問なので、主だった参加者は、皆顔見知り。始まる前から和気あいあいで、握手、抱擁。「新企画」のタンゴの演奏に力もこもる。その間は私も観客。合唱伴奏ではヴィオラ弾きがチェロに回る。タンゴ演奏も昨日から３回めで、だいぶ揃ってきた。どこでも大好評、楽譜なし、即興で弾くキーボードさんの「曲当てクイズ」も、新曲。ここは、「ふるさと浪江　踊り隊」の本拠地。踊りもほぼフルメンバー。「あんたらが来るのを楽しみに待ってたよ。」「次の第４回めはいつ頃？また来てね」。自治会役員や踊り隊など主メンバーと「はい、チーズ」。仮設参加者１８名。

午後の会場が近いので、近くのコンビニで昼食買い出し。全て 398 円の「チン」した暖か弁当を集会場で食べ、踊り隊リーダーからのお招きで、「自宅訪問」。仮設住宅の内部を、「公開」してくれた。何度か、各地の部屋にはお邪魔したが、やはり、狭い。一面「手作り花輪」。「これね。３月頃、鬱になって、引きこもっていた時の気晴らしで作ったの。あげるわよ」Ｐ１３

★第 22回　二本松市内「旧平石応急仮設住宅」★

午後１時。本宮市の石神第一から車で 10 分、二本松市の旧平石小学校仮設へ。女性の自治会長さんが迎えて頂き、「ごめんなさい。お彼岸で、多くの人が、浪江の自宅やお墓へ行っているので、少なくなったの。」この連休の日取りを設定したのは、こちら。滅相もない、と恐縮。
１時半開始。ここでは、子どもたちも興味津々。でも、外で男たちはタバコ吸いながら、入って来ない。踊り隊も、無理して２人、来てくれて踊る。ここが最後なので、終わりの時間も気にならず、３時半終了。そして、ここでも、「踊り隊」リーダー、懐かしの再会。家が向かい同士、小、中、高の同級生、大人になっても飲み友達。「アンタ、ここにいたの。」
午後３時半。合唱イベントが終って立ち話。すると、自治会長や踊り隊メンバーが、３．１１当日やその後の逃避行の話を自発的にし始める。「待った！」。急遽、体験談を全員で傾聴した。

《浪江町の方々の体験談》

・地震直後は、職場、自宅ですでに相当の被害。目の前で、来店して携帯電話で話をしていたお客の新車が倒れた壁に押しつぶされ、ペチャンコ。この倒壊した壁の下敷きで職場の同僚が亡くなった。浪江で最初の死者。一方で、海よりにいた人は、「津波」避難。津波被害の大きかった請戸の自宅は、高台にあり、難を逃れたが、車で移動しようと見たら、国道６号線（仙台⇔いわき方面を縦断する国道）は、波寄際に多くの船が流れつき、まるで波止場のようだった。
・翌日、「内閣総理大臣の・・」避難アナウンス。自宅にいなかった人は着の身着のまま。主に、３０㎞離れた内陸部、高台の「津島」の小中高へ。３０分のところ、渋滞で４時間。すでに体育館、図書館などごった返し。食べ物もなく雑魚寝。高校校長のアナウンス「ここは絶対安全ですので・・。」小学校のトイレや床は、小学生たちが清掃し、いつもピカピカだった。明るい校長が子どもたちを率先リード。一方、高校のトイレは溢れ、校庭に穴を掘ってビニールシートで周囲を囲った中では、若い女性には苦痛。各部屋ごとの班長会議では、「原発が爆発。ここは危ない」と知っていても、班長は、自分の家族を先に逃し、ほかの避難者には情報開示しなかった。しかし、誰ともなく、「噂」のように伝わり、数日のうち、見る見る人数が減る。国や県、町からの指示でなく、他の人の行動や噂で、皆、逃げ出した。

あとで分かった（いや、国は、「スピーディー」でシュミレーション予見してたのに）が、原発と「飯館村」を結ぶ方向に「津島」があった。**全員「被曝」**していたのだ。しかし、数日間、近所のコンビニや商店で数少ない「食料」買い出しに行ったり、散歩したり、雪かきしたり、畑仕事し、また子どもたちは校庭で遊んでいた。また、この時点では、津波被害地域には、相当数の生存者がいたはずなのに、１ヶ月以上、誰も助けに行けず、放置したため、見殺しにした。一ヶ月後の捜索で見つかったご遺体は、鳥や動物に食い荒らされ、悲惨。

「ほんとに悔しい」。

・一方、別な介護施設の賄い担当の人。１００人もの寝たきりや身体の不自由な入居者を抱え、自宅にも戻れず。かと言って、政府の避難指示でも、入居者とともに避難するスベもなく、周りには、誰もいなくなったが、１４日に、自衛隊の車が通りかかり、「なんで避難しないんだ」と言われた。１５日になって、ようやく自衛隊の手配で、バスが来て、同じ経営の中通りの施設まで移ったが、寝たきりや障害のある方を、非力な女性職員も、一生懸命引っ張ったりして乗せ、大変だった。しかし、３．１１から１週間は、息子２人とも連絡もとれず、不安だった。その後、栃木など転々と避難、鬱になって、人と話したくない、会いたくない状態が続いた。その後、昨年１１月、先にいた叔父の勧めで、この仮設引っ越したところ、その叔父からの強引な勧めで自治会役員をいやいや受けてしまった。でも、これがきっかけで、人と話さす機会が増え、ようやく、最近、こうやって話すことが出来るようになった、と。

・そして、口々に

「今が一番大変。将来が見通せない、浪江にはもう戻れない、希望がない。中通りで暮らすか、いわきや南相馬へ行くか、それとも首都圏へ避難した子どもたちのところへ行くか、などデメリットの多い、希望の少ない中での選択肢を迫られている。」

「私の家の車が新潟へ行った時、だれかにわざと傷をつけられ、それ以来、いわきナンバーから福島ナンバーへ替えた。このようないやがらせは多発していて、いわき市内に避難している人は、何人も同じ目に。いわき市民からすれば、よそ者の避難者が溢れ、物価や地価など上がり、迷惑な、という意識の現れ。福島市内でも右翼の街宣車が、浪江町民は福島市内から出てゆけ！と大音量で流している。」

「最近でも、県外のレストランなどに入ろうとして、浪江町民と言ったら、入場拒否された。特に栃木県や千葉県で多発しているようだ。」・・・・。

・最後に、「一時帰宅で帰っても、小さなネズミの死骸だらけ。」

「持ちだそうと袋に想い出の品をいれたが、東電の放射能測定部門で働く息子から、これもあれもダメと、戻され、ほとんど置きっぱなし」

「朝日新聞の記者が最近も、仮設の隣の人の帰宅に同行し、こんなに放置した家の傷みがヒドイとは、と絶句していた。」・・・。

参加者一同、改めて「ふるさと浪江」の歌に、参加者が涙する理由の一端を垣間見ることとなり、大変有意義な締めくくりとなった。

≪１１月　宮城・福島キャラバン≫

16日（土）

早朝３時半、我が家に来た１人を乗せ出発。同じ頃、千葉、茨城、八王子からもマイカー出発。８時 44 分着の横浜・墨田・大宮からのひとり参加の女性３人を常磐線亘理駅でキャッチ。

★第 23回　亘理町「舘南(たてみなみ)仮設住宅」★

10 時、「歌謡曲・童謡合唱イベント」開始。参加者 ２４名。笑いころげ、終ってから、握手。亘理在住の友人夫妻も参加。盛況でなにより。同席した亘理町支援課の方によれば、ここの仮設でのイベントは、だんだん少なくなってきていて、今回は久しぶり、とのこと。終って、国道６号線沿いのレストラン「田園」。待望の名産「はらこ飯」食べる。時間がないので、一気食い。

★第24回　山元町「熊野町仮設住宅」★

人家まばらな山の中のゴルフ場隣接の仮設。２回目、で迷う。午後１時半開始。こでは、以前コラボした山元町の歌を「つくり隊」リーダーやボーカルの方々３人が来てくれ、一緒に楽しみ、そして、「この町で」の合唱をリード頂いた。そして終ってから、参加者と私達の懇談会。「今頃になってようやく過去を振り返ることが出来る様になったし、将来も間変えるようになった。しかし、そのどちらも、悲しく、または希望が無く、辛さが増してきている。」。４時終了。それから、山元町の元の市街地へ。見わたす限りの平原。保存が決まった「小学校」を見る。

★相馬「夕食」・土湯温泉「宿泊」★

相馬へ１時間。もはや常連となった、百子チャンのレストラン、「pomme de terre」で夕食。また、魚介のイタリアン風料理、美味しかった。が、マスターのご挨拶「線量は低い、とはいえ、原発から遠くはないここで、中２の娘は、外で遊ぶことなく、学校と仮設の往復。笑顔が無い。また、レストランも辞めてしまおう（他へ移るなど）と思っていると、皆さんが来てくれて、またやろうか、と元気が出る」。

６時半。真っ暗なつづら折りの山道を２時間近く。ここも常連になった土湯温泉「ニュー扇屋」へ。源泉かけ流しの風呂に入り、１０時より「交流会」。若女将から、ビール、お新香、温泉卵、おにぎり、プリンなど過大な「差し入れ」。乾杯！いつ寝たのか、知らない間に布団の中にいた。

１７日（日）

★第 25回　二本松市「安達運動場仮設住宅」★

８時半に旅館を出発し、二本松市の「安達運動場仮設」へ。浪江町の方々が５００人暮らす、大規模仮設。２箇所の集会場で、午前と午後の２回、合唱イベント実施。ちょうど、天候不順で延期されていた「芋煮会」と重なり、「流しのヴァイオリン」で、ひと宣伝。どこかの童話のように、子どもたちが駆け寄ってきた。開会冒頭、自治会長から紹介され、ご挨拶。午前３０名の参加。椅子を「芋煮会」で使ったので、座布団座り。昼は、「芋煮」と今月「Ｂ－１グランプリ」で優勝した「なみえ焼きそば」、そして「大ソーセージ」頂き、パワー全開。

午後はなんと５５名もの参加者。特に、中央に陣取った男性の大活躍で、１時間半、会場は、笑い転げっぱなし。大成功。全て終了。最後に「車座」になって、各参加者より「２日間で傾聴した被災者・避難者の方々からの印象深い話」を披露してもらう。

★２日間、避難者・被災者から聞いたこと★

「浪江の人によれば、震災以降昨年までで、浪江町町民で、自殺者が３８名。今年だけで１９名。家は帰れないのに、二重ローンなどや職もく、将来が描けない。東電から補償金もらっているんだから、と採用されず、就職困難で、この仮設での就業率は３割。」

「山元町の海辺に家があった方で、３．１１当日、裏山の上から見てたら、まさかの高さの津波が来て、木につかまり助かったが、その隣の人は、車ごと流され、奇跡的に車が瓦礫に引っかかり、ひとりだけ助かったが、一緒に車で逃げた近所の人たちは皆亡くなった。」「５０歳ぐらいの女性。こんなに笑ったのは本当に久しぶり。そして、泣いたのも。自分は、昨年、義母を、今年、主人を病気で亡くし、色々な歌の歌詞ひとつひとつに涙がこみ上げてきた。本当に良かった。」・・・・・。

古賀さんからは、「実は、支援活動は、当初は２年で終わり、と思っていましたが、ここに来て、さらに現場の辛さ、大変さを誰も実感していて、また最近は支援者のイベントも減って、久しぶりに楽しかった、また来年も来てください、などとどこでも言われると、来年もやる他ない、と思った。１２月は、女川の仮設への年越しお米募金、２月頃に都内で支援会議、４月から、また現地へ、ということでどうか？」と提起。全員、気持ちはひとつ。そして、自治会長らに見送られ、その場解散。また、昨日朝、亘理駅で迎えた女性３人を二本松駅へ送って、一路、夕食も取らず、我が家へ。９時到着。

【エピソード５つ】

さて、今回の２日間もエピソード満載だった。

①タンゴ演奏に踊りがついた。

合唱の合間にバンドネオンの響きで、６曲のタンゴ演奏。そこに、今回参加してくれた「墨田区議会議員」のボリビア人（国籍は日本）が、タンゴのステップをコーチング。各会場で、男性がかり出される。しかし、出来ない。その様子を見て、「観客」は笑い転げる。大いに盛り上がった。

②各地で、地元の「知人」たちが合流

★**「亘理在住」の友人**―亘理では、４０年前の組合つながり、秋の蓼科コンサートにも来た友人が夫婦で。そこへ、今回大宮からスタッフ参加の女性が高校同級生。二人で話込んでいた。

★**「山元町在住」の「作り隊」**―山元町では、以前コラボした「この町で　歌を作り隊」の、主メンバー３人。「再会」を喜び合い、ボーカル、指揮にタンゴダンスまで「出演」、大貢献。

★**「相馬在住」のレストランマスター**相馬のレストランは、先月の「被災地体感ツアー」２４名バス訪問以来、一ヶ月ぶり、でも、今回の１７名参加メンバーの顔ぶれとは、ダブらない。前回と料理もマスターの話も異なり、新鮮だった。

★**「土湯温泉」の社長・若女将夫妻、そして従業員**―これで５回めの土湯温泉。タンゴ好きの社長や、若女将などに加え、賄いさんたちも笑顔で迎えてくれる。残念ながら、結婚式の親族だけの二次会があり、「タンゴ演奏」はお聴かせ出来ず、社長からは、「次回こそ、是非」。

★**「本宮市在住」の浪江町職員**―当初、浪江社協で問い合わせした担当のひとりで、今は浪江町職員。ＦＢ友達だが、今回初めて対面。個人病院の「お嬢様」。実家は、段々、「廃墟」化しているようだ。社協や役場の仕事もあり、多くの参加者や自治会長さんらとは「旧知」。

③「軽体操」指導先生、も大受け。

普段のメールでは、極めて几帳面で、論理的な長文を書く彼女が、なぜか、この役では、「天然ぶり」を大いに発揮する。「スカイツリーの姫で～す。」とバレエ・ダンサーのような身振りでの自己紹介。どんだけやったか、の曲の「単純な」体操振り付けも、時にリズムに乗り遅れ、間違った指導。これに、二本松では、元気の良いオジサンが「絡み」、もう、体操どころではない。「こりゃ、緑の山脈、だな。」「今度は、紫かな？」「なんだ？風呂に入って身体洗ってんのか？」。参加者、涙出して爆笑、爆裂。

④子どもたちも、参加。

また、子供に「まとわり」つかれた。甘えたいのだ。今回は、小学生の女の子。後ろから、いきなり腰に手を回してきて、「オジサンの声って、コナンの誰かに似てるんだよなあ。」。子どもたち、が心配だ。女子はヴァイオリンにも触りたがる。だが、控えめ。５歳の女子は、お姉さんにずっとおんぶされたまま離れない。まるで、３歳時ぐらいの印象。会場では、女子２人、「花は咲く」を暗記して歌っていた。一方、男子は、会場近くで携帯ゲームに興じ、誰も参加しない。なんだか、大人も同じ。二本松の元気オジサン、を除くと、そもそも少ない男性参加者。

⑤嬉しい自治会長からのプレゼント

午前のイベントに、小柄な脚立を持って、写真を撮りまくる「不審なオジサン」。途中で呼び出され、「実は、福島民報です。自治会長からの連絡で、取材に来ました。写真と記事掲載いいですか？」。午後のイベントが始まって、２０分もたたないのに、自治会長から、「横ヤリ」。「スミマセン、中断して、全員写真撮らして下さい。」。なんで？。それから１時間もたたず、消えた会長が額を片手に戻ってきて、「先ほど撮った記念写真、スタッフのコメント入りでせめてもの感謝の気持ちを差し上げます。」そういうことだったのか。早速の、思いがけないプレゼント。嬉しかった。そして、今回の四カ所の仮設では、どこでも、「また来て」と。ありがたく、ハイ！の返事。来年、また来ますよ。